

漂流

ずっと遠い場所で
平たいドーム状に
ぼおっと光る空
次第に大きさを増し
強さを増していった光
それ以来ずっと
僕たちは放浪し
得体の知らぬものに追い立てられ
漂流を続けている

奪われたのではなく
閉ざされてしまった
汚れることを怖れていなかったのに
立ち入ることを許されることはなかった
ただそこで暮らしたかっただけだが
それは禁じられてしまった

人々は恐怖に慄きながら
危ないから戻ってはいけません
汚れた故郷を棄てなさい、と諭す
僕たちは虫たちや鳥たちを羨んだ
短縮された生をそこで燃やし
倒れ伏すことができる彼らを

何年の間、こうして漂流しただろう
既に街は地図から消え
そこで開始された新たな進化について
生物学的な議論が行われている

風の便りに
僕たちは時折耳にする
遠い地が青い光を放っていた、と

(2011.9.11)